

## ■令和2年度第8回（第308回）都市経営戦略会議結果概要

【日 時】 令和3年1月20日（水）午前10時00分～午前10時30分

【場 所】 政策会議室

【出席者】 市長、日野副市長、高橋副市長、阪口副市長、水道事業管理者、  
都市戦略本部長、総務局長、財政局長、総合政策監、都市局長、

【議 題】 「第2次岩槻まちづくりマスタープラン」（素案）について

### < 提 案 説 明 >

「第2次岩槻まちづくりマスタープラン」（素案）について、都市局から次のような説明があった。

- ・ 現在改定作業を行っている「第2次岩槻まちづくりマスタープラン」（素案）について、審議をいただくものである。
- ・ 目的と背景について、現在の第1次プランの目標年次が令和2年度末までとなっていることから、第1次プランの取組状況や社会情勢の変化等を踏まえ、新たな視点を加えた第2次プランの改定作業を進めている。
- ・ 検討組織体制について、庁外においては、学識経験者、関係団体の代表者、公募の各委員で組織された策定協議会を設置するとともに、庁内においては、部長級職員による検討委員会及び課長級職員による検討部会を設置し、協議を行っている。
- ・ 改定のポイントについて、「まちづくりのコンセプト」、「地域が目指す姿」及び「まちづくりの方針」については、継続・発展としており、「まちづくりの方針」については、第1次プランの3つの方針を2つに集約し、「岩槻の未来を創る地域力の発掘・育成」を、新たな方針として追加している。「取組のテーマ」については、第1次プランにおいては、主に来街者の視点から定めていたが、第2次プランにおいては、住む人、働く人等の視点を加え、「みがく・つなぐ・つくる・たのしむ・はぐくむ」の5つとしている。「プランの推進」については、継続としている。
- ・ 対象区域について、第1次プランと同様、岩槻駅、岩槻区役所、岩槻人形博物館及びにぎわい交流館いわつき、岩槻城址公園を含む岩槻駅周辺区域としている。
- ・ 計画の位置づけについて、さいたま市総合振興計画及びさいたま市都市計画マスタープランを上位計画とし、浦和美園～岩槻地域成長・発展プランと連携を図っていく。
- ・ 第1次プランの取組の評価について、16の取組の内、達成が7、継続が9であり、課題としては、地域資源の活用が不十分、岩槻のPR不足、付加価値の必要性、観光客や住民が楽しめる環境不足及び産学官民の連携不足等がある。

- ・ 第2次プランの取組の展開について、継続の9つの取組に加え、第1次プランにおける課題解決に向け、地域資源の魅力向上、情報発信力の強化、岩槻ブランドの開発、多様な交流の場の創出、エリアマネジメントの導入など、新規の12の取組を設定し、具体的な事業を定めた次期アクションプランにおいて、それらの取組を進めていく。
- ・ まちづくりを進めるための仕組みづくりについて、多様な人材や団体が集い、情報共有とマッチングが図られるよう、まちづくりのプラットフォームを構築する。行政は、プラットフォームを支援し、民間の連携を促す一方で、民間は、プラットフォームを活用し、様々な社会実験やプロジェクトを企画・実施し、民間主体の岩槻ならではのまちづくりに取り組んでいく。
- ・ 今後の進め方について、市議会への報告後、パブリックコメントを実施し、頂いた意見を踏まえ、令和2年度末までに策定する予定である。

### < 意見等 >

- ・ 第2次プランのポイントは。
- 第1次プランのまちづくりのコンセプト、地域が目指す姿、まちづくりの方針等は、継続・発展させる。一方で、取組のテーマについては、これまでの来街者の視点に加え、まちづくりに関わる主体として、地域に住む人や働く人の視点を加えている。
- ・ 第1次プランの間に、岩槻駅舎の改修や、岩槻人形博物館やにぎわい交流館いわつきなど、シンボリックな施設の整備が進んだが、それらの施設や既にある地域資源を結びつけるような今後の取組は。
- リーディングプロジェクトの1つとして、ウォーカブルなまちづくりがある。岩槻人形博物館やにぎわい交流館いわつきなど、新たに整備された核となる施設に加え、岩槻には、時の鐘や岩槻藩遷喬館など、様々な地域資源があることから、地域の皆さんと協力しながら、それらを結びつけ、まち歩きや散策ができるような環境整備や仕掛けづくりを進めていきたい。また、既に取り組んでいるリノベーションまちづくりなど、他の取組とも連携しながら、岩槻らしい取組を民間主体で進めていくことを考えている。
- ・ まちづくりのプラットフォームのイメージは。
- 地域の住民や事業者、既に活動をしている団体、大学、策定協議会の委員など、多様な主体に参加いただき、情報共有やマッチングを図り、様々な取組を進めていきたい。
- ・ 新型コロナウイルス感染症の影響もあるが、ICT等も有効に活用し、岩槻の更なるにぎわい創出や魅力発信に取り組む必要がある。
- ・ まちづくりのプラットフォームについては、多様な主体が関わるため、その構築に時間がかかる部分もあると思うが、学生を含め若い方にも参加いただいて、様々な取組を民間主体で進められるよう、早期に具現化してほしい。

### < 結 果 >

「第2次岩槻まちづくりマスタープラン」（素案）については、原案のとおり了承とす

る。

**< 会議資料 >**

「第2次岩槻まちづくりマスタープラン」(素案)について